

うんちゅうてんだん  
雲中天壇

うめはらりゅうざぶろう  
作者：梅原龍三郎  
生没年：1888-1986  
制作年：1939  
サイズ：79.2×64.4cm  
ジャンル：洋画  
素材・技法：油彩／キャンバス  
所蔵：京都国立近代美術館



空も建物も地面も、なんとなく揺れているような絵。空と建物の青や緑が、混ざり合うような動きも見えます。これからも変化がありそうな不思議な絵です。

梅原龍三郎（うめはらりゅうざぶろう）は、豊かな色彩感覚と大胆で華やかな作風で、独自の洋画（油絵）表現を切り開きました。梅原は、若い作家たちの指導者としても日本の洋画界の中心に位置していました。この作品は梅原が初めて北京（ペキン）を訪れた時に制作されたもので、鮮やかな色彩を用いる「色彩画家」としての力量がいかに発揮されています。さらに、大きく描かれた「天壇」と空に流れる雲が、あたかも生き物のように呼応し、画面全体が動いているようにも見えます。

### よく見るためのヒント

ここは、どのような場所だろう。動くはずのない建物を揺れているように表現することで、梅原がどんなことを伝えようとしたのか考えてみよう。

### キーワードの理由

#### 図画工作キーワード

##### 色

赤、青、白、緑といったはっきりとした色づかいで、豊かに、力強く描かれています。

##### 構図

下から天壇を見上げる構図で描かれています。

##### 遠近

天壇の背景には、ちぎれ雲がある青い空が広がっており、壮大な雰囲気が伝わってきます。

##### 風景

中国の史跡である「天壇」が堂々とそびえたっています。

#### 他教科へのひろがりキーワード

##### 自然

空に浮かぶちぎれ雲が、広い空をゆったりと流れていきます。

##### エネルギー

雲がゆったりと流れていく様子を感じることができます。また、力強い筆致からは、この景色に胸を打たれて制作意欲を掻き立てられた作家の気持ちが想像できます。

##### 時代

1939（昭和14）年に、梅原龍三郎は美術展の審査のために満州（いまの中国東北部）へ行き、その帰りに北京を訪れた際にこの作品を描きました。また天壇は、中国にある史跡のことで、明清代の皇帝が天に対して祭祀（祭天）を行った宗教的な場所です。

##### アイデンティティ

梅原龍三郎は、日本の洋画界をけん引した人物のひとりです。1939年から六度にわたった中国滞在は、梅原の画風をさらに豊かなものにしました。

##### 文化遺産

天壇は、中国にある史跡のことで、明清代の皇帝が天に対して祭祀（祭天）を行った宗教的な場所です。現在は世界遺産に登録されています。